

第323回

日文研フォーラム

講師◎ 鄭 炳浩
高麗大学校 日語日文学科(韓国) 教授 / 日文研 外国人研究員

日本と韓国における「災難文学」の比較とその文化的背景

コメンテーター◎ 坪井 秀人
日文研教授

司会◎ 吉江 弘和
日文研助教

2018年9月11日(火) 十四時～十六時(開場十三時四十分頃)

ハートピア京都3階大会議室 入場無料・先着二八〇名まで

申込不要(十三時十五分頃より整理券配布)

International Research Center for Japanese Studies
The 323rd Nichibunken Forum

主催: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国際日本文化研究センター



日文研フォーラム

日本と韓国における「災難文学」の比較とその文化的背景

A Comparison of 'Disaster Literature' in Japan and Korea and Its Cultural Background

日本では地震や津波、火山噴火など自然災害の経験や被害を描く、いわゆる「震災文学」が前近代から綿々と創作されています。韓国では二〇一四年四月に仁川と済州島を結ぶ大型旅客船の沈没という惨事をおして「災難文学」という文学ジャンルが新たに認識されるようになりました。現代社会の災害・災難は単に自然災害だけではなく、近代文明の高度化が進むに従ってその多様性を増し続けています。

本発表ではこのような災難現象を描いた文学を「災難文学」と捉えて日・韓の災難に関する文学を比較することで、その文学に潜む両国の文化的な特徴を検討します。

講師 鄭 炳浩 高麗大学校日語日文学科(韓国) 教授/日文研 外国人研究員



1991年韓国高麗大学校日語日文学科卒業。2001年筑波大学大学院文芸・言語研究科博士号取得(文学)。全南大学校専任講師を経て、2005年より現職。2011年より立命館大学特別招聘教授、2018年4月より国際日本文化研究センター外国人研究員を併任。

専門分野は、日本近代文学、日韓比較文化論。主要著作に、『実用主義文化思潮と日本近代文芸論の誕生』(宝庫社、2003、韓国語)、共著『東日本大震災と日本—韓国からみた3.11』(関西大学出版会、2013)、共著『〈外地〉日本語文学への射程』(双文社出版、2014)、共著『朝鮮の美を探る—浅川伯教の再照明』(亜研出版部、2018、韓国語)などがある。

コメンテーター 坪井 秀人 日文研 教授



1987年名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。文学博士(1990年名古屋大学)。金沢美術工芸大学助教授、名古屋大学大学院文学研究科教授等を経て2014年4月より現職。2013年第4回鮎川信夫賞、2006年第14回やまなし文学賞、1998年日本比較文学会50周年記念大賞受賞。

専門分野は日本近代文学・文化史。現在の研究テーマは日本近代文化における身体政治、感覚表象。主要著作・論文に、『声の祝祭—日本近代詩と戦争』(名古屋大学出版会、1997)、『感覚の近代—声・身体・表象』(名古屋大学出版会、2006)、『性が語る—20世紀日本文学の性と身体』(名古屋大学出版会、2012)、「〈遠さ〉あるいはアウラの向こう側—前期『月に吠える』の詩の風景』(『比較文学研究』、東京大学比較文学会、2013)、「モダニズムの中の〈和歌歌曲〉—山田耕作、ストラヴィンスキー—そのほか」(『JunCture』5、2014)、「二十世紀日本語詩を思い出す」連載①~②(『現代詩手帖』、思潮社、2015~2017)などがある。

日文研フォーラムとは

国際日本文化研究センター(日文研)が、来日中の外国人研究者による日本研究の成果を市民の皆さまにご紹介し、共有していただくことを主な目的とする催しです。

1987年の設立以来、京都市中心部の会場で継続的に開催しています。

お問い合わせ先

国際日本文化研究センター 研究協力課

〒610-1192 京都市西京区御陵大枝山町3-2

TEL: 075-335-2078

<http://www.nichibun.ac.jp/ja/>



京都府立総合社会福祉会館 ハートピア京都

【アクセス】

- ・京都市営地下鉄烏丸線「丸太町」駅下車5番出口(地下鉄連絡通路にて直結)
- ・京都市バス、京都バス、JRバス「烏丸丸太町」バス停下車